

一般社団法人日本調理科学会 2021 年度第 2 回理事会議事録

日 時 : 令和 3 年 9 月 7 日 (火) 17:30~18:30

場 所 : オンライン開催

出席者: 綾部園子会長, 新井映子筆頭副会長, 高村仁知副会長, 平尾和子副会長,
中村恵子, 佐藤靖子, 飯田文子, 阿久澤さゆり, 数野千恵子, 小西史子,
磯部由香, 和泉秀彦, 坂本薫, 菊崎泰枝, 升井洋至, 五島淑子, 岡本洋子,
久木野睦子, 三成由美, 郡田美樹, 生田目早苗, 三宅裕子, 宮藤章 (以上
理事 23 名) 藤井恵子, 峯木眞知子 (以上監事 2 名)

欠席者: 名倉秀子 (以上理事 1 名)

本日の理事会は、定款第 33 条理事の過半数の出席 (理事 24 名中出席 23 名, 欠席 1 名) を満たし成立。

【配布資料】

資料 1: 一般社団法人日本調理科学会 2021 年度第 1 回理事会議事録 (案)

資料 2: (一社) 日本調理科学会 2021 年度第 2 回理事会報告資料 (編集委員会)

資料 3: 2021 年度 伝え継ぐ 日本の家庭料理研究委員会報告 (案) (家庭料理研究委員会)

資料 4: 日本調理科学会 2022 年度大会 概要 (2021.7.16 現在)

資料 5: (一社) 日本調理科学会 新企画の進捗状況と審議のお願い (企画・広報理事)

資料 6: 一般社団法人 日本調理科学会関東支部 2020 年度決算報告 (案)、2021 年度予算 (案)

資料 7: 大会開催地一覧

回収資料: 令和 3 年 5 月 1 日~令和 3 年 8 月 31 日入会申込者

1. 議長、議事録作成人、署名人選出

前例により、議長は綾部会長、議事録作成人は佐藤靖子庶務担当理事、議事録署名人は綾部園子会長、新井映子筆頭副会長、峯木眞知子監事、藤井恵子監事とする。

2. 前会議事録確認

2021 年第 1 回理事会議事録 (案) (資料 1) を確認して承認された。

3. 議事

【報告事項】

(1) 業務執行理事による業務執行状況に関する報告の件

綾部会長より規程 25 条に従って理事会へ報告する旨の説明があり、前回理事会以降の会長の業務を執行してきたと報告があった。新井筆頭副会長より庶務・編集担当として、高村副会長より情報管理・会計担当として、平尾副会長より企画・広報及び家庭料理研究委員会委員長として会長を補佐し、職務を執行してきたと報告された。

(2) 常設委員会からの報告の件

1) 編集委員会

新井副会長より、資料 2 に基づき、今年度は投稿数が 10 件と少なく、また取り下げが 3 件と多い問題を抱えていると報告があった。

2) 情報管理委員会

高村副会長より、必要に応じてメール・ニュースの発行、ホームページの更新、掲載許可等を行ってきたと報告があった。また、旧態依然とした学会ホームページを 2022 年度予算でリニューアルし、編集・更新しやすくするほか、調理に関する Q&A の導入も検討したい旨の提案があった。

(3) 特別委員会からの報告の件

1) 刊行委員会

綾部会長より、「クッカーサイエンス」の刊行について、第 1 回理事会で報告したが、期限は設けず継続する方向となったと改めて報告があった。

2) 記念出版委員会

綾部会長より、「別冊うかたま」全 16 冊が刊行され、本日「伝え継ぐ 日本のお家庭料理」完結記念講演会が開催されたこと、今後はハードカバーの愛蔵版、データベース化が進行していると報告された。

(4) 研究委員会からの報告の件

1) 災害時メニュー開発に関する研究委員会

綾部会長より、2020 年、2021 年と大会でのデモ調理はできていないが、コロナ禍における衛生管理的なことや拡大委員について引き続き検討したいと報告があった。

2) 次世代に伝え継ぐ 日本のお家庭料理研究委員会

平尾委員長より、資料 3 に基づき、これまで 6 回の運営会議を設け、本日別冊うかたま 16 冊完結記念の講演会が行われたこと、また学会ホームページに家庭料理 Web サイトを開設されたことが報告された。また、この委員会は 2023 年 3 月に終了となるが、研究成果のまとめの方向性について明日 8 日の検討会で話し合う予定である。今年度の予算は、サイト製作費及び 2018・2019 年分の CD 製作・送付に経費を使用することとし、2022 年度は予算を計上して報告書等のまとめと 2021・2022 年分の CD 製作・送付に使用する予定であることが報告された。

(5) 2021 年度大会の件

飯田関東支部長より、5 月理事会にて全面オンライン開催が決定してから登録方法変更など対応してきた。参加者は目標の 500 名を達成することが出来た。発表者は、口頭発表 44 件、ポスター 100 件、若手研究者による発表 12 件および家庭料理に関するポスター 46 件であった。予算上も目標達成できる見込みであると謝辞があった。功労賞受賞者のうち 2 名が参加費を支払っていたが、確認後学会への寄付となったと報告があった。ポスター発表へのコメントは、9 月 8 日 16:00 まで 24 時間受付しているので、是非書き込んでいただきたい。

(6) 2022 年度大会の件

坂本近畿支部長より、開催日を 2022 年 9 月 2 日（金）、3 日（土）としてハイブリッド方式での開催を予定しており、口頭発表者には来場してもらい、一般ポスターは e ポスター、家庭料理ポスターは対面式で行う予定と報告があった。平尾副会長より、家庭料理に関するポスター発表は最後になるため、ポスター発表以外に展示等についても考えたいと提案があった。

(7) その他

なし

【審議事項】

(1) 新入会員承認の件

綾部会長より、回収資料に基づき、新入会員（正会員 39 名、学生会員 29 名）の説明があり、確認後承認された。

(2) 新企画の件

平尾副会長より、資料 5 に基づき、新企画は、①個人でもグループでも参加形式が自由である ②研究内容は、学会発表ができると良い ③家庭料理の研究と一部連携できると良い、この 3 点を念頭に置いている。企画のタイトル、組織は準備委員会で原案を提示したが、あくまでもワーキンググループ(WG)で話し合うこととした。審議事項は、現在 WG へのアンケートにより状況を確認中である。

次の審議事項は理事会の承認の下で進める必要があるため、綾部委員長から説明があった。

審議事項 1 目的 急速に変化し、情報化が進む現在における調理の在り方（調理器具等を含む）を考察する

- 〳 2 活動体制 支部単位でまとめてもらいたい
- 〳 3 今年度中にアンケートフォームを決めて来年度実施したい
- 〳 4 新企画 WG の組織体制

2 については支部の中でまとめ役を決めてほしい、3 については理事会の審議を経てから家庭料理研究委員会に依頼をし、昭和 35～45 年の調理器具と現在のものの比較を依頼できないか、検討してもらうことをしたい。

1 年目は、調査により調理用具の使用等についてまとめる。

2 年目は、具体的料理を別冊うかたま 16 冊から選択し、新旧の調理方法による味の違いなど実験できないか。の追加説明があった。

中村東北・北海道支部長より、支部単位の地域的範囲および料理は年代・範囲等どの時点を示しているのかと質問があり、綾部委員長より、1 年目は、全国規模でアンケート調査を行うが、それに先だって研究倫理を通し、支部ごとにまとめたい。2 年目は、具体的に料理に関する研究を個人・グループなど参加しやすい形式で行い、まとめるのは支部単位では如何かとのことと提案された。今後の途中経過は理事会へ報告することを確認した。その後、審議事項はすべて承認された。

(3) 関東支部 2020 年度決算案および 2021 年度予算案修正の件

飯田関東支部長より、資料 6 に基づき、講師謝礼について税金分が抜けていたため支出合計額修正、繰越金が修正となることについて説明があり、承認された。

(4) 若手研究者発表奨励賞の件

新井筆頭副会長より、高村副会長、小西理事、坂本近畿支部長で審査し、投票はグーグルフォームで行うため、開票作業の手間はないので、投票数の確認は新井副会長と編集委員会副委員長の阿久澤理事が担当することが提案された。坂本支部長より、指導学生が 2 名応募しているので審査員は辞退したいと申し出があった。綾部会長より今年度の開票作業であれば問題なく行えると思っているとの発言によ

り、審査及び投票数確認に関する人選の件は承認された。

(5) 2023 年度大会の件

綾部会長より、資料 7 に基づき、順番では 2023 年度大会は中国・四国支部が予定となっていると説明があり、五島中国・四国支部長が承知していると述べられた。

岡本理事より、2020 年度大会が中止になった東北・北海道支部について資料記載の回まで行わないのかの確認質問があり、開催準備がかなり進み、演題登録直前での中止であったため、大会は中止となったが繰り下げ開催はしない旨、みなし理事会(2020 年 4 月 20 日)にて承認されていると報告された。

【その他】

(1) 次回理事会の件

令和 4 年 1 月 29 日 (土) 14 時～17 時オンライン開催することで承認された。

議事署名人	会 長	綾部 園子	印
	筆頭副会長	新井 映子	印
	監 事	峯木 眞知子	印
	監 事	藤井 恵子	印